

神にしたがって牧養する

聖書：Ⅰペテロ 5:1-3. ヨハネ 10:11. 11:25. 使徒 20:28. ルカ 15:4-6, 8-9, 18-24, 32

Ⅰペテロ 5:1-3 こういうわけで、わたしは同じ長老仲間であり、キリストの苦難の証し人として、また現されようとする栄光にあずかる者として、あなたがたの間の長老たちに勧めます。あなたがたの間の神の群れを牧しなさい。強いられてではなく、自ら進んで、神にしたがって監督し、卑しい手段で利得を求めることによってではなく、熱心に監督しなさい。また割り当てられた人たちの上に、権力を振るうのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。

ヨハネ 10:11 わたしは良い牧者である。良い牧者は羊のために自分の命を捨てる。

11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしは復活であり、命である。わたしの中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる」。

使徒 20:28 あなたがた自身と群れ全体に気をつけなさい。聖霊は彼らの間に、あなたがたを監督として立てられ、神がご自身の血を通して獲得された神の召会を牧させるのです。

ルカ 15:4-6 あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいて、その一匹を失ったなら、九十九匹を荒野に残しておき、失ったその一匹を見つけるまで捜しに行かないだろうか？ そして、それを見つけたなら、喜んでそれを肩にかつぎ、そして自分の家に帰ると、友人や隣人を呼び集めて、「わたしと一緒に喜んでください。失われたわたしの羊が見つかりました」と言う。

8-9 節 また、ある女が銀貨を十枚持っていて、その一枚の銀貨を失ったなら、ともし火をともし、家を掃いて、それを見つけるまで念入りに捜さないだろうか？ そして見つけたなら、友人や隣人を呼び集めて、「わたしと一緒に喜んでください。失った銀貨が見つかりました」と言う。

18-24 節 「立って父の所に帰り、こう言おう、『お父さん、わたしは天に対してもあなたの前でも、罪を犯しました。もう、あなたの息子と呼ばれる資格はありません。わたしを、あなたが雇っているしもべの一人のようにしてください』」。こうして彼は立って、父の所に帰って来た。ところが、彼がまだ遠く離れていたのに、父は彼を見て深くあわれみ、走り寄って彼の首を抱き、愛情を込めて口づけした。息子は言った、「お父さん、わたしは天に対しても、あなたの前でも、罪を犯しました。もう、あなたの息子と呼ばれる資格はありません」。しかし、父は奴隷たちに言った、「急いで、あの最上の衣を持って来て彼に着せ、手に指輪をはめ、足にサンダルをはかせなさい。また肥えた子牛を引いて来て、ほふりなさい。食べて楽しむのではないか。わたしのこの息子が死んでいたのに生き返り、失われていたのに見つかったのだから」。こうして彼らは楽しみ始めた。

32 節 しかし、あなたのこの弟は死んでいたのに生き返り、失われていたのに見つかったのだから、わたしたちが楽しんで喜ぶのは当然ではないか。

I. キリストは彼の天の務めにおいて人を牧養しており、わたしたちは彼と協力して人を牧養する必要があります。牧養がなければ、主のための働きが効果的になることはできません——ヘブル13:20-21. ヨハネ21:15-17。

II. ペテロは長老たちに、神にしたがって神の群れを牧養するように命じました——Ⅰペテロ5:1-3：

- A. 「神にしたがって」とは、神を生きることを意味します。
- B. 神にしたがって牧養するとは、神の性質、願い、方法、栄光にしたがって牧養することであり、わたしたちの好み、興味、目的、個性にしたがって牧養することではありません。
- C. 神にしたがって牧養するとは、神が彼の属性（特質）において何であるかにしたがって牧養することです——ローマ 9:15-16. 11:22, 33. エペソ 2:7. Ⅰコリント 1:9. Ⅱコリント 1:12。
- D. 神にしたがって牧養するために、わたしたちは命、性質、表現、機能において神となる必要があります——ヨハネ 1:12-13. 3:15. Ⅱペテロ 1:4：
 1. わたしたちは神聖な命であふれるばかりに満たされて、源、泉、川としての三一の神を享受し、神聖な命の総合計となり、神聖な命そのものとさえなる必要があります——ヨハネ 4:14. ローマ 8:6, 10-11。
 2. わたしたちは神の愛、光、義、聖である属性（特質）において神となる必要があります——Ⅰヨハネ 4:8. 1:5. 2:29. Ⅰペテロ 1:15-16。

3. わたしたちはキリストの複製、すなわち神の表現となって、わたしたちの牧養において神を表現する必要があり、わたしたちの自己をその個性また特異性と共に表現してはなりません——ヨハネ 1:18. ヘブル 1:3. 2:10. ローマ 8:29。
4. わたしたちは神の機能において神となり、彼であることにしたがって、また彼のエコノミーにおける目標にしたがって、群れを牧養する必要があります——エペソ 4:16. 啓 21:2。
5. わたしたちは神と一であるとき、人を牧養することで神となり、神です。

Ⅲ. 神にしたがって牧養しようとするなら、わたしたちは復活の中の人でなければなりません——ヨハネ10:11. 11:25. IIコリント1:9:

- A. ヨハネ第 10 章は牧養についてであり、ヨハネ第 11 章は牧養が復活の命によらなければならないことを見せています。
- B. もしわたしたちが天然のであり、天然の見方、哲学、論理に満ちているなら、人を牧養することはできません。
- C. 復活の中にあるとは、わたしたちの天然の命を生きるのではなく、神聖な命を生きることです——ガラテヤ 2:20。
- D. わたしたちが復活の中の人であるなら、命の中におり、人を牧養することができる者となります——ヨハネ 11:25. 21:15-17。

Ⅳ. 神にしたがって牧養するために、わたしたちは聖徒たちを一つの群れとならせる必要があります——10:16. ルカ12:32. 使徒20:28. Iペテロ5:2-3. 参照、イザヤ40:11:

- A. 正常な牧養は、聖徒たちを一つの群れとならせます。
- B. ヨハネ第 10 章と第 21 章で、主は牧養に関して三つの言葉、「養う」、「牧養する」、「一つの群れ」を用いました。わたしたちはみな、養うこと、牧養すること、一つの群れとならせることを学ぶ必要があります。
- C. キリストが牧場としてのご自身をもってわたしたちを養うことは、わたしたちが神の他の羊と共に一つの群れとなり、彼の一つの有機的なからだとなって、神のエコノミーの究極の目標、すなわち新エルサレムに到達することです——エペソ 4:16. 啓 21:2。
- D. すべての召会は、どのように一つの群れとなって、共にブレンディングされることができるかを学ぶべきです。群れとなる雰囲気の中で、わたしたちは主によって征服され、罪を自覚させられ、養われ、かき立てられます。

Ⅴ. わたしたちが神の群れを牧養するためには、御父の愛し赦す心にしたがっており、また御子の捜し、見だし、牧養する霊にしたがっている必要があります——ルカ15:4-24, 32:

- A. わたしたちは、手順を経た三一の神の墮落した人を捜して得るステップに従うべきです——4-6, 8-9, 18-24, 32 節。
- B. わたしたちの天然の傾向は人を牧養することではなく、人を批評し、規制することです：
 1. わたしたちがだれかを批評するときはいつも、その人を顧みる地位を失います。
 2. わたしたちの天然の傾向は、人を規制し自分にしたがって人に要求することであり、神にしたがってはぐくみ養うことではありません。
- C. わたしたちは訓練されることによって観念が変えられて、神聖な観念を持つ必要があります。この観念は、御父の愛する心と御子の牧養する霊にしたがっています。
- D. わたしたちの牧養は、墮落した人類に対する神の愛にしたがったものであるべきです。墮落した人類はサタンに結合して、彼の体系の中の世の人となりましたが、神はこれらの人々に対する愛の心を持っています——ヨハネ 3:16。
- E. わたしたちは牧養する者となって、父なる神の神性における愛し赦す心と、救い主キリストの人性における捜し、見だし、牧養する霊を持つ必要があります。
- F. 「このような交わりが受け入れられるなら、地上で大きな復興があるとわたしは信じます。それは数名の霊的巨人によるのではなく、キリストのからだの多くの肢体による復興です。彼らは牧養する者であり、墮落した人を捜して得ることで、手順を経た三一の神のステップに従います」(バイタルグループ、65 ページ)。